

事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査(平成16年度からの継続調査)

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き実施した。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川(キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続)で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。

事業費 1,170,096円(予算額1,180,000円)

(調査:山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日程 平成30年 6月 6日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

平成30年 6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

北海道の主要樹種であるアカエゾマツはピアノ材、建築材としても知られ、人工林としても積極的に植栽されてきたが、森林資源として活用には、多くの作業と数十年に及ぶ時間と多額の経費が必要なため、植林したままの人工林も存在も一部に見受けられる。このようなアカエゾマツ人工林の価値を高める手法の一つとして、枝打ち作業により出た下枝、除伐作業による細い木などの不要物を有効活用（枝葉の香りによるストレスホルモンを軽減させるリラックス効果、人畜に対する抗菌作用等への利用）することが注目され始めたことから、本セミナーでは、当財団におけるアカエゾマツ人工林において、枝葉の採取体験並びに、それらを用いた精油の蒸留過程の観察や体験、最新のアカエゾマツの機能性研究を通して、この樹（森林）が持つ多面的な有用性に触れる機会を提供した。

事業費

324,938円（予算額 551,000円）

事業概要

日時

平成30年10月20日（土）9時30分～14時30分

・アカエゾマツ造林地観察、アカエゾマツ針葉採取体験 10時00分～10時50分

・アカエゾマツ精油蒸留作業、蒸留過程見学 11時20分～13時10分

・講演「北海道の特産アカエゾマツをお宝に変える」 13時10分～14時10分

会場

・野外活動 アカエゾマツ人工造林地（3087林班他）

・蒸留作業 阿寒湖まりむ館／多目的ホール、パクパク（調理室）

・講演 阿寒湖まりむ館／トラサンペ・ユーカラ（大会議室）

参加者

38名

講 師 横田 博 氏 酪農学園大学名誉教授・（一社）PineGrace 代表

酒巻 美子 氏 北海道認定木育マイスター・（一社）PineGrace 副代表

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費

1, 000, 000円（予算額 1, 000, 000円）

（3）普及啓発事業

1) 観察会開催事業

（ア）ネイチャーウォッチング

阿寒湖は雄阿寒岳の噴火によりもたらされた全国有数の自然環境に恵まれた天然淡水魚の宝庫であり、特に阿寒湖が原産であるヒメマス（ベニザケの陸封型）をはじめ、スポーツフィッシングの対象魚として人気のアメマス、絶滅に瀕するイトウなどの希少魚種も生息している。また、網走湖より食料として移入されたワカサギは厳冬期の湖氷上での穴釣りとしても名高い。阿寒湖における魚類の食物連鎖や厳しい生息環境となる厳冬期の生態、その取り巻く自然環境を学び、感じる実体験型観察会を実施した。

事業費

255, 614円（予算額 393, 000円）

事業概要

日 時 平成31年3月25日（月）午前9時40分～午後2時40分

現 地 観 察	阿寒湖南側氷上
室 内 講 義	阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ
参 加 者	27名（釧路市全域公募の小学4年生～小学6年生）
講 師	野本 和宏 氏（釧路市立博物館／学芸員）

(イ) 自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に教科教育と連動した自然体験プログラム（延べ12回、参加者310名）並びに、津別町教育委員会生涯学習事業「アソビバつべつ！！」と連携した野生生物（エゾサンショウウオ、アメマス）についてのプログラムを（延べ2回、参加者15名）実施した。

事業費 145,935円（予算額 173,000円）

2) 前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する調査研究等の諸活動に対して助成を行った。また、札幌市において、平成29年度の助成対象者の事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で開催した。

事業費 4,728,125円(予算額 6,228,000円)

事業概要

○平成30年度被助成者

①北広島森の倶楽部ゴマシジミ研究部（北広島市）

助成内容：科学読み物「ゴマシジミの不思議な暮らし」の制作 助成額：710千円

②ユウパリコザクラの会（夕張市）

助成内容：コザクラの会30周年記念誌制作 助成額：800千円

③NPO法人 常呂川自然学校（北見市）

助成内容：2018 北の学び・カタリバ自然講座 助成額：612千円

④北海道海鳥センター友の会（羽幌町）

助成内容：天売島におけるウミスズメの保全に関する活動 助成額：650千円

⑤知床ウトロ海域環境保全協議会（斜里町）

助成内容：知床ウトロ海域のケイマフリの保全と普及啓発活動 助成額：900千円

※ 助成総額 3,672,750円

○審査経過

平成30年 1月12日 募集広報

平成30年 4月19日 審査委員会開催（応募件数：道内の団体・個人より計16件）

○審査委員 梶本 孝博 氏（審査委員長・財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

武田 敏朗 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

3）森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より取り組みを開始した「森の学校」事業において、「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）においては、学校教育の現場で森林並びにその取巻く自然環境（地形・地質・野生動植物・河川等）を活用できる教員育成に資するため、北海道教育大学釧路校学生を対象とした指導者養成事業の「きっかけポン／阿寒の森プロジェクト」を昨年度に引き続き実施した。

「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）では観光面での当財団管理森林（光の森・湖北の森）における活用の向上も鑑み、当財団が認定した「一步園森の案内人（ガイド）」による入林申請の利便性を高め、入林に関する諸情報の把握にも寄与できるインターネットを活用したWEB入林システムを構築し運用を開始した。

「研究の森」（森林を学術、調査研究に活用する事業）では東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき財団管理森林内において天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（4年次4名、3年次1名）」、「天然林における実習（3年次27名）」、「“オホーツク学”実習（1年次延べ70名、2日間実施）」に対する支援（フィールド案内、講師）を実施した。

○「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）

・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

財団管理森林（光の森）をフィールドとして、次世代の教育者を目指す学生並びに現役教員等に対し、

学校教育に係る教材発掘、活用を見据えた自然観察・体験活動の場を提供。

実施日並びに参加者

平成30年6月 1日～ 3日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等28名

平成30年9月26日～27日（1泊2日）北海道教育大学釧路校 大学生等24名

平成30年2月13日～15日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等26名

○「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）

・「一歩園森の案内人」（ガイド）

インターネットを活用したWEB入林システムの構築

「一歩園森の案内人」（ガイド）による入林申請の利便性向上、入林に関するデータの蓄積を目的にインターネットを活用したWEB入林システムの構築を行った。

平成30年度入林者数（平成30年4月～平成31年3月）

入林者数合計 749名（日本人548名 外国人201名）

*内WEB入林申請における入林状況（11月より運用開始）

平成30年11月～平成31年3月

入林者数合計 174人

国籍別内訳

日本121人 中国20人 台湾5人 アジアその他（中国・韓国・台湾・タイ以外）15人

アメリカ7人 ヨーロッパ6人

○「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）

・研究支援

卒業論文４件に係る、財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援、研究フィールドの提供を実施した。

実施日並びに参加者

平成３０年５月～平成３１年３月 東京農業大学生物産業学部学生（４年次４名３年次１名）

・実習支援

天然林を中心とした財団管理森林の解説、エゾシカ対策の解説及び、食害被害調査地の選定支援を実施した。

実施日並びに参加者

平成３０年６月 ２日 東京農業大学生物産業学部学生（１年次３６名、森林解説、食害被害調査支援）

平成３０年６月２８日 東京農業大学生物産業学部学生（３年次２７名、森林解説）

平成３１年１月１２日 東京農業大学生物産業学部学生（１年次３４名、森林解説、エゾシカ対策解説）

事業費

５７６，４８５円（予算額 １，４１９，０００円）

(4) 顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈した。尚、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動を顕彰する一步園ジュニア自然環境賞については該当団体なしであった。

事業費

1, 489, 121円（予算額 2, 338, 000円）

事業概要

○前田一步園賞顕彰者

- ・ネイチャー研究会 in むかわ（むかわ町） むかわ町教育委員会推薦

業績：シギ・チドリ類など渡り鳥の重要な中継地である鵠川河口をフィールドに、野鳥観察や生物調査を地域住民と積み上げつつ、干潟の再生のために、関係機関と連携し、人工干潟の造成、監視、除草などの保全活動に取り組む傍ら、これまで積み上げてきた調査データを基にした鵠川河口の自然環境を伝える児童向け副読本の制作、サクラソウの保護活動、地域児童への自然環境教育、外来種オオハンゴンソウの駆除など同地域の自然環境の保全や普及啓発にも取り組む。

- ・特定非営利活動法人 登別自然活動支援組織 モモンガくらぶ（登別市）登別市推薦

業績：登別市鉾山町の登別ネイチャーセンター「フォレスト鉾山」の誕生に呼応しボランティア組織として発足後、2005年に法人格を取得し、長年にわたり同地域周辺の自然をキーワードにした豊かな暮らしをつくる地域を目指す活動を進めながら、自然体験活動の「場」の提供の傍ら、登別市の100年構想に基づく「ふおれすと鉾山の森づくり」をはじめ、自然環境の調査研究、自然体験を取り入れ

た子育て支援活動や小中高大学生から社会人を対象とした自然体験活動のリーダー養成研修などの人材育成などにも尽力。

○審査経過

平成30年 5月 7日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

平成30年 9月 14日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞3件、一步園ジュニア自然環境賞1件）

平成30年11月 13日 表彰式（出席者：33名、当財団役職員含む。会場：ホテルポールスター札幌）

○審査委員 梶本 孝博 氏（審査委員長・財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

三村 起一 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

武田 敏朗 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

（5）地域保全事業

1）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要

な用具に対して助成を行った。

事業費（助成）

189,560円（予算額 300,000円）

（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

2）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成）

800,000円（予算額 800,000円）

（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

（6）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費

600,000円（予算額 900,000円）

2．森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成30年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等を実施した。

（1）保全管理事業

1）巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 1, 979, 000円（予算額 2, 000, 000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成29年度のエゾシカによる道内農林業被害額は39億2,800万円（前年度比1,100万円増）であった。被害額は平成23年度における64億900万円をピークに平成28年度までの間、年々減少していたが平成29年度において増加に転じた。北海道では平成12年度より「エゾシカ保護管理計画」を策定し個体数管理等の取り組みを推進しており、現在第5期（平成29年度策定）の管理期間（5年間）である。第5期計画期間において個体数指数（釧路市を含む東部は平成5年度の指数を100と設定）を50以下にする目標を設定しているが、平成29年度の東部個体数指数は114であった。

なお、同計画において個体数指数50は「大発生水準」、25を「暫定目標水準」と定めており、これらの状況を踏まえると、依然捕獲対策の推進が必要な状況にあると考えられる。

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、楽観視はできない状況である。

このため、平成30年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施したことにより森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を実施した。

平成３０年度の事業量は、平成２９年度設置の囲いワナ２基撤去、平成３０年度囲いワナ２基の設置、ビートパルプ給餌５５９個（３３，５４０ｋｇ、補助金活用５５個を含む）および、囲いワナ（２基）による捕獲（８１頭、平成３１年２月～３月）である。

なお、平成３０年度の森林被害防止対策の内、囲いワナの設置（２基）及び囲いワナ内の誘引を目的とした給餌（５５個）に関しては、補助金（平成３０年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い同補助金を活用し実施した。

また、平成３１年２月～３月に捕獲したエゾシカ（８１頭）については、平成３０年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金を受領した。

事業費 8, 826, 430円（予算額9, 170, 000円）
（請負等先：（有）前田一步園林業）

事業概要

- ・ 囲いワナ撤去事業

平成２９年度に設置した２箇所の囲いワナの撤去

- ・ 給餌事業

給餌場２５箇所の給餌

（春季：平成３０年 ４月 ４日から平成３０年 ４月 １１日まで実施）

（冬期：平成３０年 １２月 ２０日から平成３１年 ３月 ２７日まで実施）

餌の使用量 ビートパルプ ５５９個（１個６０kg、給餌総量３３，５４０kg）

- ・ 囲いワナによる捕獲事業

囲いワナ２箇所での捕獲

捕獲回数	15回
捕獲頭数	81頭

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理、およびゲート等の関連設備の補修・改良を実施した。なお、既存林道（雄観線・パンケ林道）の破損が激しい箇所の修繕もあわせて実施した。

事業費 5,186,000円(予算額4,950,000円)
(請負等先:(有)前田一步園林業)

林分構成の整備を図るため、現況調査を平成３０年度間伐実施区域である３１１４、３１１５、３１１６、３１１７林班の天然生林にて行った。なお、平成３０年度の間伐実施区域については、補助金制度の変更に対応するため当初計画していた間伐区域（３１１９林班）から実施箇所を変更した。そのためこれまでの調査業務においては、次年度間伐予定区域の調査を当年度に実施してきたが、平成３０年度の調査事業においては当年度間伐区域の調査を当年度実施した。加えて、調査に必要な消耗品、備品を購入した。

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。

事業費

315,000円(予算額 500,000円)

(請負先:(有)前田一步園林業)

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を実施した。また、平成31年度以降の植樹祭実施地を確保するための間伐(2.06ha)を実施した。

事業費

910,000円(予算額 750,000円)

(請負先:(有)前田一步園林業)

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林105.96haの間伐、および伐採木(1,090m³)の搬出を実施した。

事業費

23,647,300円(予算額 19,780,000円)

(請負先:(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 間伐 : 3075-3、3076-4・5・7・9、3086-3、3087-5・6、
3088-3

3) 人工造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成29年度の植栽地4.4haの下刈作業を行う計画としていたが、該当区

域の下草の成長が植栽木に影響するほどではないと判断し、実施しなかった。

事業費

0円（予算額 150,000円）

（３）天然生林改良事業

１）誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、平成２８年度台風被害跡地１５．６haの天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木（１０，０００本）の植栽を実施した。また、平成２７年度間伐実施地２．６haの天然生林の樹下にトドマツの苗木（１，３００本）の植栽を実施した。加えて、平成２８年度台風被害跡地１２．５６haの地拵えを実施した。

事業費

４，８９５，０００円（予算額 ３，７３０，０００円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 植栽、地拵え：３０７４－３

植栽：３０８９－２、３０９０－１

２）誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成２５年～２８年度に植栽した誘導造林地の３７．２７haの下刈作業を実施した。

事業費

１，３３１，０００円（予算額 １，８１０，０００円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 ３０８３－１６・２２・２３・２４、３０９０－１７、３０９３－９、３０９５－６・１６、
３１０４－３・１０

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、70.42haの間伐、平成28年度年度台風被害地5haの更新伐、および伐採木(1,647m³)の搬出を実施した。

事業費 23,449,400円(予算額28,230,000円)

(請負等先:(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

作業実施林小班 間伐 : 3114-1・2、3115-1・4・15、3116-1・2、

3117-2・15

更新伐: 3075-6

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。

事業費 817,375円(予算額 1,350,000円)

(5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は16件、人数は194名であった。

おもな視察受け入れ内容

30年	6月	2日	1日	天然林施業〈東京農大〉	(36名)
30年	6月	26日	1日	森林視察〈ニュージーランド大使館公使〉	(1名)
30年	6月	28日	1日	天然林施業〈東京農大〉	(27名)
30年	7月	24日	1日	天然林施業〈ホーツク東部森林室、指導林家〉	(11名)

30年 9月 3日	1日	天然林施業〈ボルネオサバ州立大他〉	(9名)
30年10月 1日	1日	天然林施業〈根釧西部森林管理署他〉	(10名)
30年10月 3日	1日	天然林施業〈JICA〉	(13名)
30年10月11日	1日	天然林施業〈道庁林務局森林整備課他〉	(7名)
30年10月14日	1日	森林視察〈全国巨樹巨木林の会〉	(13名)
30年10月15日	1日	天然林施業〈大坂林業他〉	(2名)
30年10月25日	1日	天然林施業〈釧路総合振興局〉	(11名)
30年11月13日	1日	森林視察〈釧路教育局高等学校就職促進事業〉	(6名)
30年11月20日	1日	天然林施業〈JICA〉	(11名)
31年 1月12日	1日	エゾシカ対策〈東京農大〉	(34名)
31年 2月19日	1日	エゾシカ対策〈釧路市・白糠町他〉	(10名)
31年 3月14日	1日	エゾシカ対策〈釧路市・白糠町他〉	(6名)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

(1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化や車両の進入を防止することを目的にプランターやベンチなどの設置を行なった。

また、阿寒フォレストガーデン整備に伴う国道拡幅用地の支障木及び駐車場敷地内における支障木や枯損木の整理伐採を実施した。

その他、契約者の死去により放置されていた危険家屋の解体を目的として、対象となる相続人調査と意向確認等を顧問弁護士に依頼した。

事業費

676,858円（予算額 1,150,000円）

(2) 危険家屋の解体撤去事業

賃貸借地（阿寒湖温泉1丁目7番278）上にある建物（一部店舗）の所有者が平成19年に死去した後、当該建物を利用していた身内も平成27年3月に亡くなり、以後放置され、損壊が著しく、このままでは倒壊のおそれがあり、隣家への被害も免れない状況にあった危険家屋について、顧問弁護士によって法的な課題をクリアし、解体撤去を実施した。

事業費

4,157,400円（予算額 5,000,000円）

(3) 土地の処分に係る件

平成30年8月にオープンした阿寒フォレストガーデン駐車場においては、出入口となる国道240号線の交通量も多く、児童・生徒の通学路となっていることから、事故防止を目的として駐車場への進入における右左折レーンの整備をするために必要な用地として、当財団の基本財産である土地の一部を国道拡幅用地として釧路開発建設部へ譲渡（収用）した。

土地所在地	面積 m ²	売買代金 (円)	備考
阿寒湖温泉4丁目4-16内	1,072.66	21,131,402	m ² 単価 19,700円
阿寒湖温泉4丁目4-30内	52.98	1,043,706	m ² 単価 19,700円
阿寒湖温泉4丁目4-31内	72.31	1,424,507	m ² 単価 19,700円
立木補償費等		3,447,326	
合計	1,197.95	27,046,941	

(4) 土地交換に係る件

阿寒フォレストガーデン駐車場の国道との出入口の信号機設置にあつては、出入口となる道路が市道であることが条件であることから、その道路の用地を釧路市へ譲渡するかわりに、それに見合う釧路市有地を財団の土地へ繰り入れる等価交換を行なった。

この交換に合わせて、昭和60年から釧路市との間で相互に無償貸借契約を取り交していた土地の交換も行なった。

等価交換詳細

	所在地	面積 (m ²)	評価額 (円)	備考
譲渡分 (財団→釧路市)	阿寒湖温泉1丁目7-321	89.00	2,047,000	23,000円/m ² 道路敷地
	阿寒湖温泉4丁目4-16内	372.74	7,343,000	19,700円/m ² フォレストガーデン取付道路
	合計	461.74	9,390,000	

	所在地	面積 (m ²)	評価額 (円)	備考
取得分 (釧路市→財団)	阿寒湖温泉1丁目7-319	205.00	4,337,800	23,000円/m ²
	阿寒湖温泉1丁目7-320	115.00	2,433,400	23,000円/m ²
	阿寒湖温泉2丁目1-46内	279.79	2,618,800	18,000円/m ²
	合計	599.79	9,390,000	

(5) 神社源泉敷地の買受に係る件

北海道財務局釧路財務事務所から源泉用地として賃借していた国有地（鉱泉地3.3㎡、宅地932.86㎡）を購入した。

平成30年4月に阿寒フォレストガーデン整備に関連して行なわれた国道240号線の拡幅工事用地（収用）として売却した土地の代金の取り扱いについて検討した結果、かねてから釧路財務事務所より買入れ要請のあった当該国有地は、安定して湧出する新神社源泉（許可揚湯量350ℓ／分）があり、鉱泉地として優良な土地であることから、国道拡幅用地として売却した土地に代わる基本財産として、経営に寄与するものと判断したことから購入することとした。

なお、買受時の賃借料は年額約200万円である。

購入した国有地の面積・価格

区分	所在地	面積（㎡）	価格（円）	備考
鉱泉地	阿寒湖温泉2丁目5番2号	3.30	14,000,000	釧路財務事務所
宅地	〃	932.86	14,100,000	〃
計		936.16	28,100,000	

国有地の購入に充当した財源

区分	金額（円）	備考
国道拡幅用地売却	23,599,615	釧路開発建設部
実施事業等会計	4,500,385	
計	28,100,000	

(6) 土地貸付

前年度に引き続き、表３－１のとおり土地の貸付を行った。

(表３－１) 土 地 貸 付 等 状 況 一 覧

契約区分	平成 30 年 3 月 現 在		平成 31 年 3 月 現 在		備 考
	契約件数	貸 付 等 面 積	契約件数	貸 付 等 面 積	
有償契約	204 件	519,555 m ²	204 件	523,925 m ²	電力会社送電線敷地 41ha を含む。
無償契約	19 件	346,115 m ²	20 件	356,991 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	223 件	865,670 m ²	224 件	880,916 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進等を本年度も継続して行った。

(1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通の予備温泉ポンプ（7.5kw）を1台、及び、揚湯管（4m×4本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事 業 費

1,795,000円（予算額 2,400,000円）

(2) 新2号源泉インバーター制御盤整備事業

新2号源泉インバーター制御盤に不具合が生じたことから、これまで使用してきた本体の制御盤と補助制御盤を統合したものを新たに製作し交換設置作業を実施した。

事業費 3,900,000円 (予算額 3,900,000円)

(3) 源泉井戸の修繕事業

チップ川源泉においては、ケーシングパイプ内の穿孔により温度低下が顕著となっていたことから、地質研究所並びに上山試錐工業㈱からの助言により、千葉県にある関東天然瓦斯㈱からのケーシングパイプ修繕に伴う試験施工の申入れを受諾したことから、施工前におけるパイプ内洗浄を上山試錐工業㈱に依頼した。

事業費 300,000円 (予算額 300,000円)

(4) チップ川源泉坑内カメラ検層と温度検層事業

関東天然瓦斯㈱にて行なったチップ川源泉のケーシングパイプ修繕工事実施後の状況を確認するため、坑内のカメラ検層と温度検層を上山試錐工業㈱に依頼した。

なお、予定していた動力変更申請は、上記検層の結果、温度低下が解消されなかったことから不実行となったため、当初予算を補正にて減額とした。

事業費 380,000円 (予算額 380,000円)

(5) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成31年3月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、揚湯中11本、休止2本、観測井2本）であ

る。前年度に引き続き、平成30年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(6) 温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

(表4-1) 温 泉 供 給 状 況 一 覧

供給区分	平成30年3月現在		平成31年3月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	66 件	299 本	64 件	297 本	
無償供給	3 件	4 本	3 件	4 本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3 本		3 本	暖房等財団諸施設
計	69 件	306 本	67 件	304 本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託し行った。

事業費

120,000円（予算額 120,000円）

(2) 財団諸業務に係るアーカイブ事業

財団諸業務に関する資料画像（デジタルデータ）は、各部担当者にて管理（保存）されているが、財団内部での共有利用並びに恒久的かつ安定的な資料画像（デジタルデータ）の管理（保存）に資するシステム構築を図った。

事業費

457,407円（予算額 470,000円）